



市川レポート

年初からの主要アセットクラスのパフォーマンスを検証する

- 今年はワクチン接種の進展による経済正常化期待で、昨年に出遅れたコモディティとリートが急騰。
- 株式はワクチン接種が進む先進国株式が特に好調、ハイールド債券は長期金利上昇が重しに。
- 好シナリオを織り込み、リスク資産は上昇中、一段高には先行きの景気の強さを確認する必要あり。

今年ワクチン接種の進展による経済正常化期待で、昨年に出遅れたコモディティとリートが急騰

2021年1月6日付レポート「2020年主要アセットクラスのパフォーマンス検証」では、主要アセットクラスについて、2020年通年の騰落率を振り返りました。その結果、株式が大幅に上昇し、社債や国債も堅調に推移した一方、リートとコモディティの出遅れが確認されました。そこで今回は、2021年の年初から直近まで、これらの動きに変化が生じたか否かをみていきます。

2021年の6月14日までのパフォーマンスは図表の通りです。上昇率の第1位はコモディティの25.8%、第2位は米国リーートの25.0%、世界リーートの22.1%となっており、2020年は通年でマイナス圏に沈んだこれらのアセットクラスが、一気に巻き返す格好になっています。これは、年明け以降、世界的に新型コロナウイルスのワクチンの接種が普及し、経済活動の正常化と一段の景気回復に対する期待が市場に広がったためと推測されます。

【図表：主要アセットクラスの年間パフォーマンス】

2017年		2018年		2019年		2020年		2021年	
新興国株式	30.6	世界国債	1.0	米国リート	28.7	新興国株式	19.1	コモディティ	25.8
先進国株式	18.5	世界投資適格社債	-1.7	先進国株式	27.3	先進国株式	13.5	米国リート	25.0
米国リート	8.7	米国ハイールド債券	-2.3	世界リート	24.1	世界投資適格社債	7.7	世界リート	22.1
世界ハイールド債券	7.6	世界ハイールド債券	-2.4	新興国株式	18.0	世界ハイールド債券	6.3	先進国株式	13.5
米国ハイールド債券	7.5	世界リート	-3.2	米国ハイールド債券	14.4	米国ハイールド債券	6.2	新興国株式	7.6
世界リート	5.8	米国リート	-4.0	世界ハイールド債券	14.0	世界国債	4.9	米国ハイールド債券	3.1
世界投資適格社債	5.2	先進国株式	-7.4	世界投資適格社債	11.5	米国リート	-5.1	世界ハイールド債券	2.8
世界国債	1.2	新興国株式	-10.1	コモディティ	9.4	世界リート	-9.5	世界投資適格社債	-1.4
コモディティ	0.7	コモディティ	-12.4	世界国債	5.4	コモディティ	-9.7	世界国債	-2.4

(注) 2021年は6月14日まで。数字の単位は%。世界国債、世界投資適格社債、世界ハイールド債券はICE BofA グローバルの指数。コモディティはトムソン・ロイター・コアコモディティCRB指数。世界リートはS&P世界リート指数。先進国株式はMSCI先進国株価指数。新興国株式はMSCI新興国株価指数。コモディティは米ドル建て価格、その他は現地通貨建てトータルリターン指数値。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



株式はワクチン接種が進む先進国株式が特に好調、ハイイールド債券は長期金利上昇が重しに

コモディティとリートに次いで高いパフォーマンスを記録したのは株式です。上昇率の第4位は先進国株式の13.5%、第5位は新興国株式の7.6%となっています。先進国株式のパフォーマンスは昨年に引き続き好調で、ここまでの上昇率は2ケタに達していますが、新興国株式の上昇率は1ケタにとどまり、やや伸び悩んでいます。これは、新興国におけるワクチン接種のペースが、先進国に比べ総じて遅いことも一因と考えられます。

株式に続き、上昇率の第6位は米国ハイイールド債券の3.1%、第7位は世界ハイイールド債券の2.8%でした。いずれも2020年より、やや控えめなパフォーマンスにとどまっています。ハイイールド債券については、前述の経済活動の正常化期待などが強い追い風になったとみられるものの、米国などで長期金利が上昇したことで、上げ幅が抑制されたと思われます。

好シナリオを織り込み、リスク資産は上昇中、一段高には先行きの景気の強さを確認する必要あり

年初から足元まで、マイナスのパフォーマンスとなっているのが、世界投資適格社債と世界国債であり、それぞれ-1.4%、-2.4%となっています。2021年に入り、米国や欧州主要国で、長期金利の上昇傾向が鮮明になったことや、米国における金融政策の正常化も市場で意識されはじめたことなどが、これらのアセットクラスへの投資判断に大きく影響したと考えられます。

ここまでの各アセットクラスの動きをみると、世界的なワクチン接種の進展と経済活動の正常化というシナリオは、相当程度、織り込まれたと思われます。リスク資産が選好されやすい地合いは、今しばらく続くとみられますが、リスク資産の価格が一段と上昇するには、シナリオ実現後の景気の強さが必要です。そして景気を見通すには、やはり、各国の経済指標や、金融政策および経済対策の方向性を、丁寧に読み解くことが求められます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会